



木もれびの道 (県民の森)

厚生協会だより

2017年7月21日
第 344 号

発行
公益財団法人
宮城厚生協会
〒985-0835
宮城県多賀城市下馬
二丁目13番7号
TEL 022-361-1113
FAX 022-361-1124
発行人：平賀 秀法



青空に 入道雲が 笑ってる

なでしこの 浴衣姿に ときめいて

涼風に くちなしの香り 散歩道

今日の日を 愛しむように 蝉しぐれ

北部診療所ケアママネージャー

佐藤志津子

暑中お見舞い
申し上げます



2016年度決算を振り返って

経営改善5ヶ年計画を確実に進め、 内外の環境変化に対応できる経営構造に転換を!



経営環境

アベノミクスの意図的無責任財政は子ども世代の貧困や非正規労働者の増大をもたらした。医療介護保険制度の改悪や若者生活保障政策の不備もあいまって、サービス供給は狭められ、医療では受診控え、介護ではサービスが受けにくくなっています。こういった日本の政治・経済・社会情勢の特徴は、法人経営にも大きく影響しています。

2016年度決算の概要

2016年度診療報酬対応として、坂総合病院、長町病院、泉病院で施設基準の引き上げが行なわれましたが事業収益は対前年比で横ばいです。とりわけ入院収益での予算かい離が継続しており、医療収益で1億87百万円、介護収益でも1億39百万円予算に届いていません。



専務理事
平賀 秀法

協会損益

単位：百万円

科目	累計実績	予算	増減額	前年度実績	増減額
〔事業収益〕	15,813	16,137	▲324	15,776	37
入院収益	8,901	9,248	▲347	8,889	12
外来収益	4,469	4,303	166	4,411	58
介護収益	1,549	1,688	▲139	1,610	▲61
〔事業費用〕	15,685	16,040	▲355	15,726	▲41
人件費	10,127	10,362	▲235	10,000	127
材料費	1,777	1,747	30	1,794	▲17
委託費	1,274	1,267	7	1,234	40
経費	1,453	1,530	▲77	1,504	▲51
減価償却費	663	702	▲39	772	▲109
消費税	333	371	▲38	354	▲21
〔事業利益〕	127	97	30	50	77
【経常利益】	147	83	64	81	64
特別損益	▲55	0	▲55	▲43	▲12
〔当期利益〕	92	83	9	38	54

事業費用は予算に対して3億54百万円下回っています。今年度重点課題として取り組んできた費用管理の成果が表れています。一方で、賞与を予算通り支給出来なかったことを厳しく捉えなければなりません。

事業収益は158億13百万円を確保し、設備投資や人件費を抑えたことにより、経常利益は1億46百万円、当期損益で92百万円の黒字となりました。これにより2014年度以降継続していた資金流出を一旦止めることが出来ています。

期末資金残高は13億69百万円となり、期首から2億39百万円増やしています。事業キャッシュは10億25百万円となり、安定した資金運営を行うための目安としていた10億円を確保しています。しかし、支出が抑えられた要因には、設備投資の抑制や金融機関への返済を繰り延べしたことも認識しなければなりません。

2016年度決算は、経営改善5ヶ年計画で強調した「収益増が見込めない中では支出構造の転換が不可欠である」との認識が端的に表れた結果となっています。経営構造の実態をしっかりと踏まえ、改善すべき課題を明らかにし、全事業所・職員が一体になって取り組むことが引き続き求められます。

2017年度の経営課題

昨年策定した経営改善5ヶ年計画は、支出構造の見直しを重視しています。2016年度は委託契約の見直しや宮城民医連に加盟する法人の配送業務を県連物流センターとして統合したことで1億円を超える経費が削減できています。あらゆる分野での効率化は引き続き追求しなければなりません。

最も多くの割合を占める人件費を如何に見直せるかが大きな課題となります。既存の年功制の賃金制度では毎年1億円を超える人件費が増加し、経営に与える影響は容認できない水準となつています。また、刻々と変化する外部環境の中で、職員の達成感や満足感を向上させるためにも人事制度と賃金制度の見直しが必要不可欠となっています。こういった状況から、2017年1月に人事・賃金プロジェクトを立ち上げています。既にグラウンドデザインに基づき案がまとまりつつあり、医師集団での議論が進められています。全職種制度

事業所別損益

単位：百万円

	事業収益			事業費用			経常利益		
	実績	予算	増減	実績	予算	増減	実績	予算	増減
坂 合 計	8,755	8,815	▲ 60	8,555	8,689	▲ 134	165	88	77
長 町 合 計	2,554	2,577	▲ 23	2,485	2,596	▲ 111	53	▲ 43	96
古 川	1,067	1,072	▲ 5	1,090	1,124	▲ 34	▲ 1	▲ 23	22
泉	1,523	1,613	▲ 90	1,524	1,602	▲ 78	▲ 8	1	▲ 9
診療所合計	658	685	▲ 27	676	699	▲ 23	▲ 17	▲ 13	▲ 4
歯 科 合 計	238	243	▲ 5	230	237	▲ 7	8	7	1
ケアST合計	931	1,041	▲ 110	918	970	▲ 52	17	70	▲ 53
南光台包括	12	14	▲ 2	48	49	▲ 1	▲ 9	▲ 7	▲ 2
事 務 局	0	0	0	90	1	89	▲ 66	0	▲ 66
協 会 合 計	15,813	16,137	▲ 324	15,686	16,040	▲ 354	147	83	64

設計を2017年度中に行なうことを目標としています。

中長期事業計画は、建設から30年以上経過する泉病院や古川民主病院の構想づくりとなります。しかし、個々の構想論議では法人経営に与える影響が大きく包括的に検討することが必要と考えられます。医療活動を抜本的に見直す判断をするには、法人としての医療活動がどうあるべきか、

俯瞰した構想づくりとしなければなりません。2017年度中の策定が求められ大きなテーマとなります。

2017年度予算においても必要利益を確保するまでには至っていません。経営改善5ヶ年計画を確実に進め、内外の環境変化に対応する経営構造に転換していかなければなりません。



職場でのセクハラ・パワハラ
防止のために く医療・介護編く

「宮城厚生協会2017年度
第1回ハラスメント研修会」開催

5月20日(土)の午後、坂総合病院教育ス
テーションにて各事業所(5ヶ所)とのテレ
ビ中継も含め100名以上が参加し、標記テ
ィマで2017年度第1回ハラスメント研修
会が開催されました。



お話しする井川氏

21世紀職業財団の井川資英
氏(ハラスメント防止客員講
師)を講師に迎え、テキスト
「職場におけるセクハラ・パ
ワハラ防止のために」に沿い
ながら、事例も交え多種多様
な内容について分かりやすく
説明されました。

部下がミスした時ほど
上司は冷静な判断を

まず、セクハラ・パワハラ・
マタハラの法的な定義が説明
され、それぞれの特徴と実態
が報告されました。

次に、テキストの「セクハ
ラ・パワハラチェックリスト」
で参加者が自己点検をしまし
た。そして、加害者や事業者
の法的責任について、事例か
ら見た実態、パワハラに該当
しないもの(○業務遂行上必
要な指示、命令や正当な注意・
叱責、○正当な教育指導、○

正当な評価・処遇、○相当性
を欠くとはいえない範囲のも
の)などの説明がされました。
また、上司は部下がミスを
した時ほどカッとならない冷
静な判断が大切とも述べられ
ました。

グループで事例検討



グループごとに検討その1

1つのパワハラ事例につい
て8グループに分かれて、登
場人物の同僚としてできるこ
と、職場のチームとしてでき
ること、組織(病院)として
できることなどを検討し、そ
の内容をグループごとに発表
しあいました。

発表内容のそれぞれの項目

についてその都度講師からの
アドバイスもありました。



グループごとに検討その2

ハラスメントの
基礎知識共有が大切



他事業所と通信しての研修会風景

ハラスメント防止対策につ
いて述べられました。
今回のような研修会の定期
的開催などの機会を設定する
などして事業所全体でハラス
メントの基礎知識を共有する
ことの大切さや、ハラスメン
トが発生した場合、担当相談
(部署)者(外部からの担当
も1つの手段)は被害者が何
を望んでいるかをきちんと把
握しての対応が必要であるこ
とも強調されました。

2回目は12月21日(木)に
開催を予定しています。

宮城民医連
原水禁世界大会 in 長崎壮行会

日程：2017年7月28日(金) 18:30 ~ 20:30
場所：坂総合クリニック8階大会議室
クリニック1号館七十七ATM側からお入りください。

内容：①2016年度広島大会参加者より報告
②学習講演
「なぜ民医連が原水禁運動を行うのか」
③2017年度参加者交流

軽食をご用意してお待ちしております。 主催：国民運動部 平和部門

県連の「石炭火力発電所問題を考える会」事務局長の萩原修部長に、石炭火力発電所問題について寄稿していただきましたのでご紹介します。



世界中で縮小されつつある石炭火力発電所が、なぜ日本で、被災地でたくさんできるのか？

1. 全国45（4は計画変更）、東北14、宮城4が建設及び計画
皆さんご承知の通り、仙台港に仙台パワーステーション（関西電力・伊藤忠合弁）社の石炭火力発電所が6月12日に火入れ試運転中、（7月20日には石炭投入、8月中には全面出力までの試運転後）10月から営業運転が予定されています。

2. (仮称)仙台商松発電所(石炭・木質ペレット7:3の混焼、四国電力&住友合弁)は現在環境アセスメントの審査中
8月に仙台市の新市長が見解を表明予定です(アセスをしても環境基準を満たせば、建設中止できない仕組みがあり、だからこそきつぱりとした発言のできる市長が切望されます)。

当初住民説明会は開催しない姿勢を堅持していましたが、急きょ夢メッセ(3/8)、汚染物質が最も高濃度で降下と予想される多賀城市八幡地域で2回、12日(水)には七ヶ浜町で説明会を開催。しかし、環境影響調査(アセスメント)が必要な11・25

仙台商3つ目のバイオマス(北米産木質ペレット)の火力発電所説明会は、7月19日(夢メッセ)、21日(多賀城市民会館)で開催。もう一社打診もあるそうです。

3. なぜこうなるのか？
①電力自由化での西日本(60Hz)の電力会社が、東日本(50Hz)の地域に発電所を作って販売したい。②仙台商に輸入による石炭や木質ペレットを陸揚げできる。③(女川原発や福島原発の被災で)送電線の容量に余裕が

ある。④被災地は土地が安い。⑤工業用水がある。⑥県や仙台市が企業誘致に熱心。⑦1km圏には住宅地がない。などが理由とされています。

一種の「惨事便乗型ビジネス」とも、沖縄の基地や福島の原発と並ぶ「犠牲のシステム(高橋哲哉)」と思われます。「電気は首都圏、利益は関西、汚染物質は被災地」の構図は変わりません。地域住民が声をあげ、市長や知事を変えて意見を言うことが大事です。

4. 人口密度からみた発電所の存在 健康被害を危惧
関西電力唯一の石炭発電所は京都府舞鶴市にあり、人口密度は241人/km²。四国電力は徳島県阿南市と愛媛県西条市に石炭火力発電所を持ち、人口密度はそれぞれ、257人/km²。

一方、仙台商周辺(公害協定を結んだ立地地域のそれは)仙台市1380人(宮城野区3348人)、多賀城市3180人、塩竈市3080人、七ヶ浜町1400人、利府町794人、名取市793人、神戸市2776人、京都市1772人、松山市1190

人、高松市1190人。

発電所の5km圏内の人口は、東北大学長谷川公一教授の試算によれば、宮城野区50,838/188,817人(26.9%)、多賀城市59,595/62,932人(94.7%)、七ヶ浜町16,805/19,089人(88.0%)、塩竈市21,984/54,959人(40.0%)とされ、その中で約15万人が暮らし、学校は32校あるそうです。

患者・住民の方々が、特に健康に問題を抱えた弱い人への被害が危惧されます。河原田先生が32校の校医をされていた時、東北電力の石炭火力問題で1000名の児童健診をしたそうです。広瀬・水戸部両先生の奮闘に続き、民医連や厚生協会で働く医療者の出番のときとします。



学習会の状況 (坂総合クリニック8階会議室)

さわやか **エッセイ**

久しぶりの部活動



右から2番目が浅利先生

泉病院脳神経科 **浅利 まみ**

「運命の出会い」

きっかけは2016年の泉病院忘年会。毎年恒例で演奏披露していた期間限定音楽部の部長さん（すみれ子先生）が、休暇で不参加となり今年はどうするんだ？ということになっていました。そこに先だって姪の文化祭でマーチングバンドに魅せられたあさがり一人。ここに魅惑のコラボ誕生です。迷惑の間違いかもかもしれません。折しもドラクエ30周年記念の年、音楽部はあさを臨時部長にドラクエマーチングバンドを演目としてエントリーしました。日中業務を残業にして夜な夜な頑張り、ある種のやり切った感はあるながらも不消化感も残りました。

「通年活動部への昇格」

割とすぐにリベンジチャンスがやってきました。地域住民の方と音楽を通じて交流するための「紫山音楽祭」に参加許可を頂きました。老若男女に楽しんで頂ける曲選定から始まり、リコーダーと鍵盤ハーモニカの8人編成で、週1回ペースで部活動を開始しました。4月29日、音楽祭は結果オーライなところもありますが大成功でした。さらに長町病院健康まつりにも参加させていただけることになり、事実上通年活動の部に昇進しました。

「リコーダーや鍵盤ハーモニカの魅力」

さすがに歌には敵いませんが、手軽さが一番の魅力です。1本持っていればいつでも旋律が奏でられます。先日は泉ヶ岳のスキー場あたりまで出かけて空と山に囲まれて演奏してきました（うるさかったらごめんなさい）。自宅に楽器があることも多く、初期コストがかからず、小中学生の時に吹いていますので最初から演奏に参加できるのも大きな魅力です。

「癒しから野望へ」

働き盛りの大人が週1回集まって部活動をするというのはそんなに簡単ではないと思いますが、音楽の魅力なのでしょう。出席率は上々で、演奏の腕前も少しずつ上がっているように感じます。私自身も最初はストレス発散になって丁度いいくらいのことでしたが、もっと上手になりたいとか弾ける楽器を増やしたいとか思うようになりました。今年は準備不足で断念しましたが、来年は仙台医師会医家芸術祭音楽部門にエントリーしたい！

入部希望の方がおられましたら、泉病院放射線科山口さや香（楽曲編成担当かつコンサートマスターです）宛にご連絡ください。

